

## イメージ・映像依存から脱却する地誌学習を目指して

社会科専修・川瀬久美子

### 1. 授業の概要

日本列島は狭い国土ながら多様な自然環境・社会環境が組み合わさって、各地で特色ある地域性が見られる。現代社会を理解し、地域社会を形成していくためには、その場所毎に固有の地域性について理解しておく必要がある。本授業では、地域性の観点から現代社会を分析する能力を身につけることを目的とした。

本授業の到達目標は以下の3点である。

1. 地域ごとに異なる日本の自然と社会の特色の概要を説明出来る。
2. 地図や統計を活用して、客観的に地域性を分析し、他者に実証的に説明できる。
3. 現代日本が抱える課題を地域性の観点から分析し、その課題について関心を高める。

本授業の受講生には、学校教員養成課程の「日本地誌」として履修した者（3回生12名と4回生2名の計14名）と、総合人間形成過程の「地域地理学（日本）」として履修した者（3回生6名）がいる。本授業に対応するディプロマ・ポリシーとしては、学校教員養成課程では「教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）」と「子どもの発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができ、個に応じた指導や説明ができる。（技能・表現）」に当たる。また、総合人間形成過程では、「共生社会を築くため、地域・福祉・平和に関する幅広い知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）」「科学的・実践的な知見に基づいて、多様な社会的問題に柔軟に対応できる高い技術と表現力を身につけている。（技能・表現）」「地域・福祉・平和をめぐる現代社会における諸問題に関心を持ち、これらの問題に取り組むための理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。（関心・意欲）」に対応する。

成績評価は、各回の説明に対する質疑への参加と各自が担当した発表がどれくらい入念に準備され分析・考察がなされていたか、および時間外学習の提出をもとに行った。

### 2. 授業内容と授業づくりにおけるポイント

今期の授業では、日本の地方区分にしたがって毎回1地方について、教員による概要説明（45分）と受講生二人一組による報告（30分）がなされた。

また、時間外学習として、日本各地のローカルなニュースに注意を払い、要点を記述して提出するよう求めた。当初は毎回の提出を要求していたが、提出されたうちから1～2名のものを授業の冒頭で紹介するのに時間を要するため、途中から隔回の提出に変更した。

教員による説明は、取り上げる地方の自然地理（主に地形・気候）を説明した後、歴史や産業から見た地域的特色を整理した。多岐に渡る地理的現象を45分で説明することはそもそも困難であり、本授業では特にその地方を特色づける事柄を中心としながら、さまざまな地理的現象が有機的に結びつきながら地域的特色を形成していることを示すよう心がけた。また、地域を理解する上でのポイントを3つに絞り、説明の冒頭で示した。

教員による説明では、カラー地方地図とA4サイズ1枚に整理したレジュメ、地図や図表をA3サイズで4枚前後配布した。筆者のこれまでの授業では、パワーポイントで写真や図表を提示しながら解説してきた。しかし、今期の授業では敢えて資料映像は提示しなかった（授業の導入として映画の1シーンやテレビドキュメンタリーは上映した）。地理授業とくに地誌では、ある地域に特徴的な自然景観や産業の様子を撮影した地理写真を活用することは多い。写真を活用することで受講生の興味・関心を引き出すことはできるが、その一方で、地域をイメージのみで捉え「理解した気分」に錯覚させているのではないか。そのような反省から、今回は映像を極力排する一方、地図および統計資料から地域の姿を読み取るという作業を繰り返した（ただし、実際には受講生に資料読み取りの十分な時間を与えることが難しく、地図・統計のどの部分に着目していくかを解説していった）。

一方、受講生による発表は、各地方の地域的特色と関連するテーマを教員が設定し、受講生に調べ学習をさせて発表させた。こちらの発表についても、解説・報告は配付資料をベースに進めるよう要求した。近年の学生による報告は、情報源をインターネットに頼りパワーポイントを活用したものが多く、ネット上の情報（テキスト・写真）をパワーポイント上にコピー・ペーストして形を整えただけ、という報告も少なくない。このような報告は、報告者と視聴者の両方に前述のような

「理解した気分」の錯覚を引き起こす。それを避けるため、紙媒体のレジュメの作成を義務とし、場合によってはパワーポイントも補助的に併用して良いとした。レジュメには「後で見直しても理解できる説明と地図・グラフの掲載」を求めた。

### 3. 授業改善への学生の意見

最終回の授業終了後、受講生に授業についての改善点を記述させ、無記名で提出させた。授業に出席していた受講生全員 20 名から回答を得た。回答は主に以下の3点に集約される。

#### 1) 教員の説明と学生の発表内容の重複

- ・ 教員の授業内容と学生の発表内容が被る可能性もあったので、教員がある地域の説明をした授業の次の回に学生の発表という形をとるとよいかと思う。
- ・ 教員の講義と発表者の内容が被ってしまっていることがあったので、順番を逆にしたら発表の足りないところも補足できて良いのではないか。
- ・ 事前に発表学生と教員で内容のすりあわせをすべきだった。学生の発表と教員の説明が繋がれば聞いていてもっと楽しいと思う。

#### 2) 教員による解説

- ・ 時間を過ぎることが多かったので、教員の説明をもっとコンパクトにしたら良いと思う。
- ・ 概要の説明は様々な観点からで、少しわかりにくかった。
- ・ パワーポイントを使ってカラフルな写真を用いたらよい。
- ・ 映像資料をもって入れて欲しい。
- ・ 最近の資料をもって入れて欲しい。
- ・ 日本地図を配布されていたので、その地域や県の主要な地方の紹介があったら良かった。
- ・ 各地域を見ていったあとで、最後の授業をして、それぞれの地域の共通点、相違点をまとめてもよかったかもしれない。

#### 3) 受講生の能動的な参加

- ・ 地誌に関する資料読解と議論の場を少し設けてみてはいかがでしょうか。
- ・ 学生が実際に活動をしたり、ディスカッションして意見を深めたりできるような時間があれば、もっと授業が深まるのではないか。
- ・ 質問形式だとあまり意見が出ないので、グループ事に議論するテーマを一つ挙げてもらって、少し自由に話し合える時間があるといい。
- ・ 発表から質疑応答という流れだったが、近くの人と話をする時間がどこかで欲しかった（質疑応答のところか、発表の中で一つ問題提起をするか）。

- ・ 学生が各地域で何を取り上げて発表するか自分たちで選べると、より深く調べられたかもしれない。
- ・ 地域の何を調べるかは学生が決めた方が色々なことがあって面白かったと思う。

### 4. 授業改善案

教員の説明と学生の発表内容の重複について、受講生からの指摘が多かった。この点は教員にも自覚があり、「授業後半で受講生が解説してくれるだろうから、この説明は省略する」とした回もある。しかし、地域における地理的事象の相互関連性を理解させるには、学生の発表テーマとしている事象をまったく説明しないわけにはいかないことが多かった。学生の報告を次回にずらすというアイデアを検討したい。

教員による解説は、さまざまな事象に関する地図・統計を解説していったため、時間が不足し、説明もやや単調となった。ほとんどの受講生が教員に追従して資料を読み取っていたが、居眠りをする受講生もいた。これらを解決するため、地図・統計の読み取りを基軸としながら、説明のメリハリをつけるために、厳選した映像資料を提示していくことを考えたい。

学生のほとんどが各自の発表のために熱心に情報収集をして準備しており、中にはユーモアに富んだパワーポイントや発表者二人の掛け合いで聴衆を沸かせた回もあって、発表そのものには主体的に参加できていた。一方、毎回、解説や発表に対して聴衆からの質疑の時間を設けたが、あまり発言は活発ではなく特定の受講生に限られていた。教員が定めたテーマは過疎問題や産業の動向などすべて地域問題に繋がっていくものであり、現代社会の問題として受講生に考えさせる必要を感じている。漠然とした「質疑」ではなく、社会問題として討論できるような議題を発表者に設定させるようにしたい。

### 5. 総括

受講生からは改善点とともに「日本の全国のことを知れて楽しく有意義な時間だった。」「様々な資料から新たな発見があり、勉強になった」のような評価が挙げられていた。

映像資料を極力排除した今期の授業は、学生にとって味気ないものだったかもしれない。しかし、イメージに頼らず、地図や統計などの客観的資料を読み取って地域像を浮かびあがらせる地理的思考能力の習得は、現代社会を担う次世代には不可欠と筆者は考えている。今期の反省を踏まえ、来年度の授業の改善を試みたい。